



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
 新一万円札の渋沢栄一は暗いところが嫌い？ 実業家 渋澤 健



- 4 インタビュー／扉を開く
 片山真理 アーティスト
 時空を超える「アート」の力を信じて

- 9 地域の底力——鹿児島県肝属郡肝付町
 行政の先駆的な試みが多様な可能性を生む
 鹿児島県肝付町



- 16 対談／守・破・創
 高橋裕子 津田塾大学学長
 内田眞一 日本銀行副総裁
 津田梅子の生涯とその志を継ぐ女性リーダーが変える社会

- 20 FOCUS → BOJ 46 改刷に向けた日本銀行の取り組み
 新しい日本銀行券の発行に向けて

日本銀行のレポートから

- 24 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2024年4月—

- 26 「金融システムレポート」—2024年4月—

- 32 トピックス
 新千円券肖像・北里柴三郎の出身地からのレポート(熊本支店) ほか



- 35 AIR MAIL from Brussels
 複雑な小国・ベルギー

表紙のことは

日本銀行高松支店は、第二次世界大戦中の昭和十七年（一九四二）二月に、二一番目の支店として開設されました。

四国には既に松山支店がりましたが、戦火の下でも四国島内への現金供給を円滑に行う必要性などから、高松支店が設置されました。

表紙の店舗は、開設当初の店舗です。旧高松城主子息・松平頼寿氏所有で、市の公会堂「讃岐会館」として使用されていた木造二階建ての建物を改装して店舗としましたが、昭和二十年（一九四五）七月の空襲により金庫を除き全焼しました。一日たりとも現金供給に空白を生じさせないため、店舗焼失の翌営業日には、百十四銀行本店を間借りして営業を再開しました。

その翌月、二代目店舗として旧高松信用組合の建物を受け継ぎ、その後、昭和五十五年（一九八〇）には、現在の三代目店舗（高松市寿町）に移転しました。二代目店舗の跡地は、現在、高松市美術館として市民の憩いの場となっています。高松支店は、これからも地域の皆さまとともに歩んでいきます。

裏表紙の写真は、金融研究所アーカイブ所蔵のものです。



表紙・画 北村公司